

## 成長見守る母の分まで

東日本大震災から11日で5年。あの日、岩手、宮城、福島  
の3県で、100人を超える新  
しい命が生まれた。子どもたち  
の成長は家族の、被災地の、そ  
れぞれの未来に向けた歩みでも  
ある。



①近くの公園で遊ぶ下沢悦子さん親子。震災当日に生まれたさくらちゃん(左)には妹と弟ができた。岩手県宮古市、林敏行撮影  
②星山琉菜ちゃん(左)。父晃一さん、母真弓さん、弟の晴ちゃんと。福島県南相馬市、仙波理撮影

食べられなかったプロッ  
コリーが、食べられるよう

になった。一昨年は悔し涙  
を流した運動会で、去年は  
1等賞をとった。  
岩手県宮古市の下沢悦子  
さん(37)は、長女のさくら  
ちゃんの成長に日々気づか  
される。2011年3月11  
日。地震の30分前に生まれ  
たさくらちゃんの誕生日を

心から祝える気持ちになっ  
たのは、最近のことだ。悦  
子さんにとってこの日は、  
母たえ子さんの命日でもあ  
るから。  
悦子さんは母親を知らず  
に育った。生まれてすぐに  
両親が離婚。「悦子」の名  
をつけてくれた父方の祖母  
を幼い頃、父も小学  
3年の時に病死した。ずっと  
と親類の家で育てられた。  
学校の授業参観日。化粧  
した母親が来てくれる同級  
生がうらやましかった。母  
を恨む気持ちもあった。  
母と初めて会ったのは、  
震災の3カ月前。宮古駅前  
のバス停に座っていると、  
突然女性が声を掛けてき  
た。「えっちゃんだよね。  
お母さんのたえ子です」。  
えくぼが印象的な、優しく  
うな人だった。  
春に子どもが生まれたら、  
たえ子さんが再婚相手  
と暮らす宮古市の海の近く  
の街に見せにいくと約束し  
た。だが、母は震災の津波  
にのまれ、亡くなった。58  
歳だった。  
その年の秋、再婚先を訪

ね、思ってもみなかった母  
の話を聞いた。  
悦子さんが小学校の頃、  
運動会をこっそり見ていた  
こと。結婚を人づてに聞  
き、近くまで様子を見に行  
っていたこと……。  
なぜ母は成長した自分が  
分かったのか、理由が分か  
り涙が出た。自分も母親に

なり、子どもの成長を間近  
で見られなかった母のつら  
さが身にしみた。  
震災の翌年、次女の未  
ちゃん(3)が生まれ、昨  
秋には長男の源治くんが  
誕生した。今は育児休業  
中だが、介護施設での仕  
事にやりがいを感じてい  
る。子育ての相談に乗って

くれる高齢者たちは母であ  
り父のような存在だ。昨冬  
夫と離婚。子ども3人を育  
てるための介護福祉士の資格  
をとろうと勉強を続けている。  
悦子さんは、心に決め  
ていることがある。子ども  
たちが大人になるまで、絶  
対に死なないこと。そはで  
成長を見届けてあげること  
と。

## 娘たち 夢持てる福島に

福島県南相馬市の星山晃  
一さん(38)は今、住宅地や  
道路の除染作業に出かける  
毎日を送る。  
震災が起きるまで、東京  
電力の協力会社の社員とし  
て福島第一原発で働いてい  
た。屋内作業だった原発の  
仕事と違い、除染は一日中  
外の作業。モグラや蛇や  
スズメバチに遭遇する。重  
機を使うので、新たに資格  
も取った。  
震災の日に生まれた長女  
の琉菜ちゃんは、自宅近く  
の幼稚園に通う。バレンタ  
インデーには妻の真弓さん  
(36)と一緒にクッキーを作

つてくれた。  
5年前の3月11日。地震  
から約4時間後の午後6時  
49分、真弓さんは第一原発  
から約4kmの双葉厚生病院  
で琉菜ちゃんを出産した。  
翌日の早朝、原発が危な  
い」と避難を指示され、琉  
菜ちゃんをタオルにくる  
み、バスで病院を離れた。  
福島市、郡山市などを転  
々とし、いわき市の県営住  
宅に入った。震災から2年  
後の夏、晃一さんの実家が  
ある南相馬市に自宅を新  
築。その3カ月後、長男の  
晴くん(2)が生まれ、家族  
は4人に増えた。

市内の一部は今も避難指  
示が出されている。昨夏、  
晃一さんは琉菜ちゃんが通  
う幼稚園の駐車場を除染し  
た。黙々と草を刈る姿を真  
弓さんは忘れられない。  
「除染や第一原発の廃炉  
作業は大事な仕事。でも、自  
分たちの世代で終わりにし  
たい」。晃一さんは言う。  
子どもたちが大人になる頃  
には、やりたい仕事が多く  
さんあって、夢を抱ける福  
島にしたい。(宮崎加菜子)